

サラダボウルとは…?

文学部には学部生・院生・教員を含め、様々な考え方を持ったいろいろな人がいます。その多様な人々が集まって部活動されている市立文学部の様子が「多様なサラダボウル」という言葉のイメージに似ているということです。



サラダボウル

大阪市立大学文学部案内

Faculty of Literature and Human Sciences
Osaka City University

2011

大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構

斬新なアイディアに基づく、学生の、学生による、学生のための支援組織

「大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構」は、文学部 50 周年記念事業の一環として 2003 年 2 月 10 日に発足しました。これは、学生（学部生+大学院生）の「学び」を支援するために、教職員のサポートを得ながらも、学生みずから事業を運営する組織であり、学生どうしや教職員らとのコラボレーションによって、新たな知の創発をめざすユニークなプロジェクトです。

教育支援

文学部生の教育環境をより良くするために、「新入生歓迎キャンプ」「先輩学生によるコースガイダンス」等の大学生活の基本的な部分の支援をしています。また「留学支援セミナー」や「外国語学習会」「国際交流会」などの国際教育の場の提供もおこなっています。

研究支援

文学部生の自主的かつ主体的な知的探求創造の活動全般を支援しています。学生が集まっての研究会や勉強会への助成、卒論に悩む人のための「卒業論文セミナー」や、大学院生がじぶんの研究を報告しあう「院生フォーラム」、文学部の学生たちの知の交流の場である「文学カフェ」などの開催、書評賞、研究奨励賞、優秀卒論・修論賞の企画と審査などもおこなっています。

進路支援

隔週で「メールマガジン」を配信して、就職や進学を目指す学部生・院生に役立つ情報を提供したり、ほぼ月 1 回の割合で「文学部生向け進路支援セミナー」を開催し、自己分析法、面接対策、内定者体験談、就業体験講演会など、進路を決定していく上で役立つ企画を運営しています。また、社会人として望まれる基礎力を養成するための学生企画事業もおこなっています。

編集

教育促進支援機構の機関誌『フォーラム人文学』の編集作業をおこないます。支援機構の活動報告や、優秀卒論・修論、各コース紹介など、文学部・文学研究科の活動を伝えるメディアを世に伝えるとともに、一冊の雑誌をゼロから作り上げる達成感や、出版編集実務のイロハを学ぶのも最適の機会を提供しています。

新入生歓迎キャンプ

「2010年度新入生歓迎キャンプ」レクレーションでの集合写真。2007年度から始まった新入生歓迎キャンプは年々規模を拡大させていて、今年度は101名の参加者を集めて盛大に行われました。→



進路支援セミナー

就職情報会社の方による講習会が開かれたり、実際に就職を決めた方の報告会や就活中の学生に対して相談会が開かれたりしています。→



フォーラム人文学

教育促進支援機構の機関誌で、最新号は NO.7。中身はフルカラーのページもあり、毎号進化を続けてます。→



飯ごう炊さんの様子→

←時間割作成の様子

卒論セミナー

卒論に悩む学生を対象に、院生が自身の体験談を語りつつ、卒論に取り組む 4 回生に対して質問に答えるといったようなことをしています。

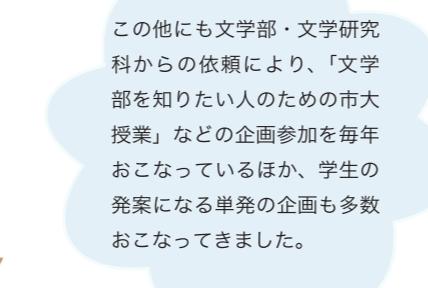
オープンキャンパス

高校生と現役市大生のトーク企画である「フリートーク」、実際の大学施設を見学してまるわる「学内ツアー」など、学生スタッフが主体となって企画し、例年好評を博しています。



文学部案内作成

教育促進支援機構では、2008 年度の文学部案内冊子から、立案、企画、製作を全て学生の手によって行っています。学生の視点を導入して、これまでにない冊子作りを目指しています。→



左から 2008 年度版、2009 年度版、2010 年度版と年々進化を続けています。

1 年間の猶予期間って？

みなさんは、2回生から 13 コース（2 領域）いずれかのコースに所属して学んでいきます。文学部にあるどの学科を選ぶのか、その選択は皆さんの将来を占う大問題。大学で学ぶ学問をまだ知らないで、「大学」における学びの分野をあわただしく決めてしまうのではなく、ゆっくり落ちついで、大学で提供されている授業の幾つかを実際に受講しながら、人生の根柢をめぐる思索をしてほしい——、そんな願いをこめて、文学部はコース決定までに 1 年間の猶予期間をもうけています。

コース決定の流れ

4月

入学式
第一回コース希望調査

6月

教員によるコースガイダンス
先輩によるコースガイダンス
第二回コース希望調査

10月

教員によるコースガイダンス
先輩によるコースガイダンス
第三回コース希望調査

12月

コース最終希望の提出

4月

それぞれのコースへ ...



←先輩によるコースガイダンスの様子（春）



←先輩によるコースガイダンスの様子（秋）

先輩にコース選択の体験談を聞いてみました！



三宅 悠太さん
哲学歴史学科
日本史コース
2回生



植田 英里さん
人間行動学科
教育学コース
2回生



畠山 遼さん
言語文化学科
表現文化コース
2回生

高校生のころから、大学に入ったら日本史を専門に勉強したいと思っていたので、他の学科・コースは見ることなく、日本史コースだけを見ていました。それに、全学共通科目の「日本史の見方」という授業や、1 回生から受けることのできる日本史の専門の授業などを受けたことで、高校までの「暗記科目」だった日本史とは違うということを知りました。たしかに、専門の授業では、「自分で考える」といった、高校のときと違った部分に戸惑つたりもしましたが、それでも日本史に対する興味は変わらず、むしろさらに増していました。ただ、僕は、最初から日本史コースしか見ずに、そのまま進んでしまったけれど、もっと広い視野を持って、いろいろなコースを見たうえで選択するのも面白いなど今だからこそ言えます。

高校生のとき、まだ自分が具体的に何を勉強したいのかは決まっていませんでした。いろいろ調べているうちに市大文学部には「1 年間悩むことができる」期間があるということを知りました。そのなかで最初に興味を持ったのは社会学コースでした。そして入学後、6 月の「先生によるコースガイダンス」での教育学コースの先生の説明が面白くて興味を持ちました。そして、教育はとても身近なものだし、常に自分に関わっている、ということが決め手になり、教育学コースへ進むことに決めました。

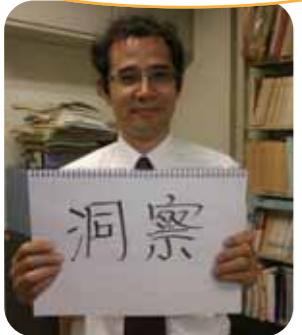
市大文学部では 1 年間悩める期間があります。しかも、その 1 年間で情報を得る機会は十分にありますので、高校の段階で何がしたいか決まってなくても大丈夫です。

気になる各コースの紹介は次のページから！

先生と社会学

自分自身の将来をイメージしたときに、サラリーマンよりも、ジャーナリストとかの方が合っているだろうな、面白いだろうなと思っていたこともあって、社会学を専攻しました。また、「社会人像」というものに違和感や疑問、また漠然とした問題意識があったのもありますね。そして今は、一般的にも大きく取り上げられるようになりましたが、貧困問題やホームレス、ワーキンググアとかって言われるような問題がありますよね。そういう人たちに、インタビューしたり調査したりということをしています。そういう問題の研究は、海外の方が日本よりも進んでいるので、その国際的比較みたいなものを大きくテーマとしています。また、かつて海外にいたこともあって、海外の研究者とその国際比較をする、というのがこれからやりたいことの一つですね。

先生にとって社会学とは!?



川野 英二 教授



川野 英二 准教授

社会学の魅力

社会学の魅力としては、「自分を取り巻くすべてがテーマになる」という幅広さが1つ挙げられます。社会学の専門で、「ニュースの言説分析」について考える授業がありました。つまりニュースの構成にはどういう意図があるか? 例えば、政治ニュースとスポーツニュースのテンションの違いはなぜ? などですね。この授業を通して、普段ニュースを見るときにもこういった視点で見れるようになりました。社会学を学ぶことで、自分の身の回りのいろんな現象を今までと違った視点で見れるようになります。社会学を専攻したことは、卒論のテーマはまだ明確には決まっていないけど、就活にて自分が体験したことに対する疑問を持ち、それを卒論テーマとしてとことん追求していきたいと考えています。

社会学コース



4回生 岩谷 磨衣子さん

卒論テーマ抜粋

- ・障害者と小規模作業所
- ・なぜ学生は画一化されたリクルートスーツを着るのか
- ・広告を批評するということ
- ・スポーツ中継の映像分析 一映像と音声による「語り」を探る
- ・大阪市と市民団体の協働の実際
- ・まちづくりNPO法人を例として一
- ・夕方のニュース番組の現状 一夜との番組比較から考察する一
- ・地域社会をつなぐコミュニティスクール
- ・「宇宙社会」の可能性

その心は!?

社会学は実証科学ですけれど、データとか目に見えるものを通して、社会という目に見えないものをつかみ出すということが必要です。C.W. ミルズという人が「社会学的想像力」ということを言ったのですが、これは、個人の身近なところで起こっている事柄と、社会の大きな事柄とを結び付ける想像力ということで、それが「洞察」ということです。我々はそれを使って日々生きているわけですが、その具体的な内容とメカニズムを意識的に明確にするのが社会学です。例えば高校生であるということ自体、ある時代ある社会に特有な社会的ポジションであって、どの大学へ行こうかとか考える場合、様々なデータを参考にして意思決定するわけですが、それは最終的には頭の中での想像力に由来する。それは自分がどういる存在かということを確認することもあります。また、例えば「日本」の定義を前提として共有しているかのように想像することで、人間の生活は成り立っている。そのメカニズムを解きほぐしていくのが、社会学であり洞察であるのかなと思います。

人間行動 学科

先生と教育学

幼い頃から、人と関わる中で、人が成長したり、変化したりすることに興味がありました。大学は教育学部に入りましたが、教師になろうというよりは、どんな地域・時代であっても、一人ひとりが大切にされる教育や学校はどうやって成り立たせたらいいのかを考えたいと思いました。現代社会の一つの特徴は多言語化であり、学校にも言葉や文化の違う子どもたちが学んでいます。例えば、アメリカはそうした社会の典型です。社会が多言語化する中で、国民国家を前提に单一言語による統合を強調してきた公教育（学校教育）はどうあれば良いのか。このような観点からアメリカの言語マイナリティ（英語を母語としない子どもたち）に対する教育政策や制度を中心に研究しています。

現在の日本は、言語や文化の多様化がますます進んでいます。自分とは異なる言語や文化をもった人を尊重し、お互いの可能性を伸ばしていくような学校のあり方を望みます。それを実現するためには、学校制度、教員養成やカリキュラムなど、教育制度を全体的に再検討する必要があると考えています。

先生にとって教育学とは!?



滝沢 潤 准教授

教育学の魅力

まず僕は教職をとるつもりでした。教育学コースの授業は、教職の授業よりも少人数で、かつ内容の濃い授業なので、ここへ進んでより深く学びたいと思いました。教育は、誰しもが関わる身近なものです。また、「教育学実習」という授業で小学校に行ったことはとても刺激になりました。これまで学んだことを実践し、学校の中身をいろんな視点から落ち着いて見ることができました。僕はこの実習を通じて、「学力の定義とは?」ということが今とても気になっています。「今、日本で重要視される学力は、本当に重要なのか? ほかにもっと重要な学力はないのか? どの学力が重要視されるべきなのか?」についてもっと考えていきたいです。

教育学コース



「教育学演習Ⅳ」
瀧本 知加 特任講師



3回生 野田 真史さん

卒論テーマ抜粋

- ・子どもの学びを促進する教師の授業構想力
- ・小学校における特別支援教育コーディネーターの役割と力量について
- ・「対話」を通した生活指導～集団づくりに求められる対話指導とは～
- ・絵本の読み聞かせに対する保育者と保護者の期待および実態に関する研究
- ・生徒を引きつける英語授業とは～自己表現活動のすすめ～
- ・発達障害児を育てる保護者と教師の共同

先生と心理学

大学に入ると、何を専攻するかで迷ったのですが、自分自身のことや人間関係のことを勉強したいなと思い、心理学を専攻することにしました。今は価値割引という、お金でもモノでも、待ち時間が入ると価値が下がるという現象を研究テーマにしています。この現象は例えば、今すぐもらえる一万円と一年後にももらえる一万円は価値が違う、というようなことを含みます。また、この価値割引は禁煙やダイエットとも関係があります。そういうような日常生活面と関係するような部分を深めていくことに、研究の価値があるんじゃないかなと思うので、これからそういう応用的な部分もしていきたいですね。他にも、身近な行動の説明をしたり、あるいは望ましくない行動の改善や、良い行動を伸ばすことなどに役立つような研究ができるかなと思っています。

先生にとって心理学とは!?



池上 知子 教授



佐伯 大輔 准教授

心理学の魅力

僕はもともと「人間」に興味があり、心理学や哲学を考えていましたが、「実験」ができるという魅力に惹かれて心理学に決めました。ここでは、2回生でデータ解析の基礎を学び、初級実験も行います。3回生で応用的なデータ解析法を学ぶとともに、ゼミに分かれ、より具体的で個人的な実験を行います。社会心理学、学習心理学、認知心理学、生理心理学など、心理学の基礎を一通り学ぶことができます。実験は、ハト、ラット、人間などを対象に行います。僕は「ハトの行動実験」を卒業論文のテーマに考えています。ここでは、臨床心理学のような応用的分野は取り扱っていませんが、まずは心理学について基礎からしっかり学ぶなら、その環境はかなり充実しています。

心理学コース



4回生 畑 秀明さん

卒論テーマ抜粋

- ・関係の親密性とうわさの伝達意図、伝達動機の関係
- ・ラットのプレバースルス抑制および自発的交替反応に及ぼす MK-801 新生仔期反復投与の効果
- ・ヒトにおける遅延時間の選択：絶対報酬量の効果
- ・遅延割引の購買行動への影響
- ・感情欲求および認知欲求と広告効果の関連
- ・ハトの利己性とゲーム場面における協力行動との関係
- ・中国留学生の異文化適応感とソーシャルサポートとの一致性

その心は!?

なぜ心理学が「元気の源」かというと、私にとって心理学をやっていることが、毎日の生活の楽しさの原因になっているからなんですね。そんな日々の楽しさを与えてくれる心理学の魅力のひとつは、それを通して、「人間とはどんな生き物なのか?」「人間とは何か?」ということを考えさせてくれるということだと思います。いろんな学問分野があるなか、私は、大学で偶然心理学と出会い、興味を持って、これまで研究してきました。そして、今自分が感じたことを授業やゼミを通して、学生に伝えるときには、わくわくすることができます。これも楽しいですし、そういう学生との触れ合いを通じて、または学会などを通して、同じように心理学に興味を持っている人と出会えるということも、日々の楽しさにつながっていますね。これはもちろん学生にも言えることだと思うのですが、特に私にとっての心理学は、様々な人の架け橋になる、非常に大切なものです。

先生と地理学

私はもともと理学部で地球科学を専攻していましたが、都市地理学（総合教育科目）の講義を受講したことがきっかけで地理学という学問を知りました。都市の発達やそのメカニズムを分析する点で、面白そうな学問だなという第一印象を受けました。4回生時に地理学を専攻することを決心し、大阪市大の大学院に移りました。現在はGIS（地理情報システム）を用いた研究を行っています。具体的には、保健医療分野、特に感染症や地域医療を対象とした研究を行っています。今後も地理情報を用いて防疫対策や地域医療に役立つ研究を行いたいと思っています。最近はGoogle Mapなど、誰もが地理情報を接する機会が増えています。地理情報・個人情報の取り扱いや地図の表現方法について理解を深めてもらえるように、今後は地理情報に関する教育も重視したいと考えています。

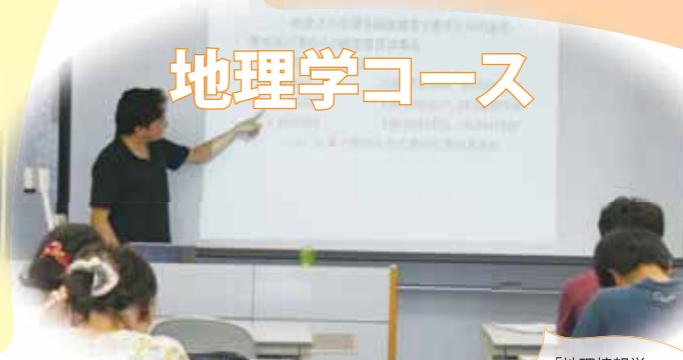


木村 義成 講師

地理学の魅力

もともと街並みや景観などに興味があり、それがきっかけとなりこのコースに進みました。ここでは、2回生でフィールドワークにおける様々な「方法」を学んだり、コンピュータを用いて地図を作成する授業があります。3回生では先行研究を読んで勉強し、実習なども経験します。そして4回生では卒業論文です。そんな地理学の魅力は、フィールドワークを盛んに行なうことです。フィールドワークでは、ネットや文献だけでは絶対にわからないことを知ることができます。授業で近江八幡に行った際、その環境に配慮した街づくりに興味を持ったので、「この場所だからできる都市計画」を軸にこれから勉強していきたいと思っています。

地理学コース



「地理情報学」
木村 義成 講師



3回生 西岡 美樹さん

卒論テーマ抜粋

- ・ショッピングモール建設が若年女性の消費行動に与えた影響 ～イオンモール機能アルルを事例として～
- ・堺市におけるコンビニエンスストアの立地展開
- ・過疎山村における高齢者の生活維持とモビリティ ～和歌山県新宮市熊野川町の事例から～
- ・沖縄県那覇市の中心市街地における通りの変容 ～沖映・浮島・桜坂・桜坂中通りを事例として～
- ・熊野本宮大社周辺における世界遺産登録後の観光動向の変化

先生にとって地理学とは!?



山崎 孝史 教授

その心は!?

大学とは university と言うように、universe つまり宇宙、外に開かれた世界を見つけるところです。特に地理学は、書斎の中で終わらなくて、外へ出て行って、自分の住んでいる世界の外側を見る。知らない世界を知りたいという人は地理学に来てください。中学とか高校の地理は、山とか川とかを見えるというイメージがあるけど、大学の地理学は、人間と周りの環境との関係を明らかにする学問です。また、レオナルド・ダ・ヴィンチのように、昔の人が皆すごく多才だったのは、世の中のどんな現象も一つの学問分野だけで語れないということを知っていたから。地理学は、そういう時代からの学問なので、博物学的なんです。だから、一つの現象を多面的に見たいっていう人は地理学に向いています。世の中はどんどん複雑化し、専門分野がさらに細分化される傾向にあるなかで、地理学のように、自分の専門以外の人ともつながって現象を考え、総合的に見るという視野を持つことは、社会のどんなポジションについても必要なことだし、それができるのが魅力の一つでもあります。

先生と国語国文学

高校生の時に柳田国男の『雪国』というエッセイを読む機会があったんですが、集団の中で形作られる文芸について、叙情的な美しい文章でつづられていて、とても興味をそそられました。大学に入ってから、国文学の中でも、個人よりは集団の中で形成される面の強い説話文学的なものにひかれていたのは、そのせいかもしれませんね。研究を始めた当初は、説話が発生する場やその機能、説話集の内側の秩序の問題などを考察対象としていたんですけど、市大に着任して学生さんたちと接する中で、人間の方により関心が向かうようにならざりました。現在は鎌倉時代の説話作家である無住についての研究と、無住の同時代に編纂された歴史書『吾妻鏡』の説話伝承の記事についての研究の二つを中心に行ってます。今後はこれらのテーマを融合させて、鎌倉武士と延喜僧の伝承世界といった方向にさらに展開していくならと思っています。



小林 直樹 教授

国語国文学の魅力

入学当初からここに進むことは決めていて、平安時代の古典文学をやりたいと思っていました。しかし、もちろん古典だけではなく、国語学全般を広く学ぶことができます。最初は、平安時代の古典文学しか興味ではなく、この部分を深く学ぼうと思っていましたが、国語学について幅広く学ぶうちに、ほかの分野もとも面白くて興味がわいてきました。それから視野が広がり、普段の日常生活において新たな視点で物事を見るようになりました。そして、これから卒論で取り上げていきたいテーマとして、「平安時代の落葉物語と室町時代の落葉物語（改作本）の比較」を考えています。

国語国文学コース



先生にとって国語国文学とは!?



久堀 裕朗 准教授

その心は!?

私の一番の専門は、日本文学の中でも人形浄瑠璃（文楽）です。文楽に興味を持ちはじめたのは大学に入ってからで、それまでは歌舞伎や文楽の世界を全く知りませんでした。初めて劇場に行き、私は文楽を、未知の、現代とは全く別の世界のものであると感じました。それから文楽について色々と研究し、作品を深く知るようになりましたが、未だに私の常識では思いつかないような世界がそこにはあります。

国語国文学の魅力の一つは、そういう別世界との出会いですね。しかし矛盾するかもしれません、それは別世界であるけれども、同じ日本のものですから、自分に直接つながっている世界でもあるのです。古い時代のものは、現代人は分からなくなったりもありますが、その時代から続いている日本というものもあります。昔と今を比べて、変わった所や変わらない所を見発見することが出来る。その両方が魅力ですね。

先生と中国語中国文学

学生の時、ちょうど文化大革命が終わってばかりで、社会主義中国に興味を持ち、中国語を勉強するようになりました。4回生の時、天津に留学し、中国人は芝居が大好きな民族ということもあり、伝統演劇である京劇を見ました。そこで中国人と同じ気持ちを共有できた（ように思った）ことが、今まで中国と付き合っている理由ですね。今は、20世紀の中国文学のなかでも特に演劇について研究していて、「戯曲」という芝居の番付を集めて、そこから中国演劇の歴史や文化的意味を見直そうとしています。「戯曲」はこれまで全く研究対象にならなかったけど、当時の上演実態を唯一証明するものと言えるぐらい重要な資料です。20世紀の中国文化の中で、演劇はすごく大きな位置を占めているけど、これまではエリート文化の視点から演劇文化が研究されてきただけなので、逆に演劇文化からエリート文化を見直すということをやりたい。



松浦 恒雄 教授

中国語中国文学の魅力

当初から中国の武術に興味があり、中国にも興味を抱いていました。そして、中国の歴史や思想について勉強し、また大学での中国語の授業が面白かったので、ここで勉強しようと決めました。2回生で、中国の文学史、思想史、コミュニケーション、中国語学などをひど通り学んだ上で、今は特に思想史に興味を持ち、中国思想をもっと深く学びたいと思っています。日本人が中国に対して悪いイメージを抱いているのは、中国のことを知らないからです。中国での善悪は、その本質を学ばない限りわかりません。現在のニュースなどで「表面的な」中国だけで判断せず、本質を学んで中国のことをもっと知ってほしいです。学ぶ環境は整っています。

中国語中国文学コース



先生にとって中国語中国文学とは!?



張 新民 准教授

その心は!?

まず、この漢詩は、「勉強だけして考えていなければだまされる。考えるだけで勉強しなければ結局何にもならない」という意味です。つまり、中国語や中国文学を勉強する際にも、しっかり考えながらやってほしいし、実際に自分の役に立つように勉強するためには、自分の考えを持っておくことが大切だと思います。私にとって中国語中国文学の魅力は、まず「新しい発見がある」ということです。もともと日本人と中国人は似た部分が多いけど、勉強することでいろいろな不思議なもの・新しいものを発見できます。例えば、漢字は中国から伝來したものだが、日本から中国へ逆に漢字の意味などが伝播して、現在の漢字の半分近くは日本語から成立したものだと言われています。これからも中国とのつながりは必須だし、現在の中国の経済発展に伴い、互いの影響力はさらに大きくなっていくでしょう。だからこそ中国語や中国文化を勉強することは、これからの未来にとても役に立つのです。

言語文化 学科

先生と英米言語文化

大学に入った当時、日本の中には興味を持ってなくて、それより西洋の文化が魅力的でしたね。大学にアメリカの詩を研究している先生がいて、イギリスのロマン派詩人とかとは全然違って、新しかったですね。それで、アメリカの現代詩を研究することになりました。これまでずっと白人の詩人を研究してきたんですけど、アメリカの歴史って黒人の歴史でもあるんですよね。それでは今は、ラングストン・ヒューズという黒人の詩人について研究しています。

「人生短し、学問は長し」と言うように、ようやく研究の入口に来たという感じですね。だから学生時代に体験した「自分とは何か」を、学生たちと一緒に悩みたいですね。今情報は簡単に入ってくるけど、本当に自分で豊かにしてくれるものと出会うのは困難な時代。でもそれは大学でしか手に入らないし、つらい時でも自分で立ち直れるパワーを与えてくれます。



古賀 哲男 准教授

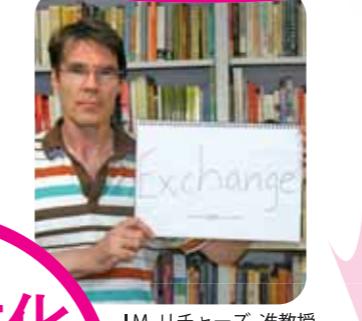
英米言語文化の魅力

英語に関するなら何でもできます。英語学、英米文化学、英米文学など……。ただ話せるようになるというだけではなく、英語をいろんな角度から学ぶことができます。これまで学んできることで感じることは、英語に対するいろんな視点から見ることができます。例えば、英語の文学作品を読んでいて（英米文学）、そのなかの1つの表現方法が気になって、もしその表現について深めていくなら英語学になるし、背景を深めるなら英米文化学になります。このように、本当に小さな気づきや興味から、英語についてとことん、幅広く勉強していくことは、大きな魅力の1つだと思います。

英米言語文化コース



先生にとって英米言語文化とは!?



I.M. リチャーズ 准教授

その心は!?

市大学生が大学で学ぶ中で、実際に留学しなくてもネイティブの先生との会話や授業を通して留学生のような経験をできたらいいなと思います。一つ目はこのような留学生という意味での“Exchange”。語学の授業も、入ったら外国を感じられるような教室にしたいです。また、私は学生に教える立場ですが、学生から若さのエネルギーをもらうことがあります。教師として与えるものもあり、学生からもらうものもあります。これもteacher-student間の“Exchange”です。これは年をとると一層大切になってきますね。このコースの魅力は、学生のモチベーションが高いこと。そして言語、文化、文学などいろんな勉強ができることです。それらを学ぶ環境は整っているので、このコースに来たら自分のやりたい分野の勉強ができる、モチベーションを高められると思います。

“task-centered-learning”を取り入れながら、英語を使って学生みんなで何かを解決し、その結果学べるような教育スタイルを意識してやっていきたいです。



4回生 奥野 唯さん

卒論テーマ抜粋

- Extensions of the Preposition by Considering Bob Dylan's Changes to His Music
- トニー・モリソンの『Beloved』に見る母性愛と過去からの解放
- A study of Prepositions Which Give us Some Interpretation in a Sentence
- thump の音と構文
- トルーマン・カボーティの意義
- Semantic Differences of stand, sit, and lie as "Existence" Verbs
- Japanese Culture through Western Eyes
- 『嵐が丘』におけるヒースクリフの愛の本質

先生とドイツ語圏言語文化

二ヶ国語の著作（とりわけ『ソララストラウト』）に出会い、その影響を受けたことが、この専攻を選んだ最大の理由です。現在の研究テーマは、19世紀末～20世紀の世紀転換期のウインの作家ホーフマンスターを対象としています。ホーフマンスターの文学は、大きくは唯美主義の傾向に属すると言われていますが、同時に、それに対する根本的な批判を含んでいます。このアンビヴァレン特の関わり方とその意味について研究しています。

世界を美的仮象として捉える唯美主義は、近代の後の現代における世界との新たな根源的な関わり方を提示するものですが、しかしまた、言うまでもなく、世界は美的仮象に還元され尽くすものではありません。唯美主義の批判を通して現れるのは、現代における主觀にとっての他性の問題であり、こうした他性との関わり方の問題を、唯美主義だけでなく表現主義等の現代文学・思想に即して、広く考えていくたいと思います。



寺井 俊正 教授

ドイツ語圏言語文化の魅力

もともと英語に興味がありました。英語はドイツ語がベースで、フランス語の要素を含んだ言語だと知りました。そしてドイツ語に興味を持ち、勉強したいと思いました。ドイツ語は難しそうで不安な人もいるかもしれないけど、授業は少人数で進め細かい指導なのでとても充実しています。言語・文化・文学など、ドイツ語圏に関することすべてが対象となります。私の卒業論文のテーマは、「ドイツ語と英語の比較」についてです。また文学部は、ドイツのハンブルク大学と提携を結んでおり、サマーコースとして夏休み中に1ヶ月の短期留学もできるし、学内でも留学生と交流する機会がたくさんあって、よい刺激になると思います。



4回生 今堀 はるかさん

卒論テーマ抜粋

- ミヒャエル・エンデのファンタジーについての一考察 —『モモ』『はてしない物語』の作品構造の観点から—
- ドイツ語の中のmind探し～小説の翻訳にみる、ドイツ語におけるmindの表し方～
- グリム童話における「現実」と「非現実」
- Preonastische Negationの定義について
- 前期ヴィトゲンシュタインの倫理観

先生とドイツ語圏言語文化



神竹 道士 教授

ドイツ語フランス語圏言語文化コース ドイツ語圏言語文化領域



先生にとってドイツ語圏言語文化とは!?



神竹 道士 教授

その心は!?

ドイツについてある程度のイメージは持っているでしょうけれども、ドイツを勉強することでそのイメージがことごとく覆されると思います。意外とドイツってこうだったのかとか、意外とドイツ語ってこうなんや、とかね。ドイツと日本はよく似ているところもあります。ただ、我々は世界にどうあるべきかと問うた時、ドイツ人は常に世界に目が向いていて、一步先に出て政策に打ち出しているから、日本にとって非常にいいサンプルになるんじゃないかなって思っています。異文化の人々との接し方といった点でも非常に参考になりますね。古いタイプの謙虚さがドイツには感じられる点があるんですよ。不思議な感じがしますけどね。言語を勉強していく最近思うのは、言語は価値観の基本になるということ。言葉が違っても善とか道德心とかそういうことは普遍的ですよね。ただ、それをどう表現するかっていうのは言葉によって違うんですよね。そういう違いをみるとことは非常に面白い。

先生と国語国文学

高校生の時に柳田国男の『雪国』というエッセイを読む機会があったんですが、集団の中で形作られる文芸について、叙情的な美しい文章でつづられていて、とても興味をそぞられました。大学に入ってから、国文学の中でも、個人よりは集団の中で形成される面の強い説話文学的なものにひかれていたのは、そのせいかもしれませんね。研究を始めた当初は、説話が発生する場やその機能、説話集の内側の秩序の問題などを考察対象としていたんですけど、市大に着任して学生さんたちと接する中で、人間の方により関心が向かうようにならざりました。現在は鎌倉時代の説話作家である無住についての研究と、無住の同時代に編纂された歴史書『吾妻鏡』の説話伝承の記事についての研究の二つを中心に行ってます。今後はこれらのテーマを融合させて、鎌倉武士と延喜僧の伝承世界といった方向にさらに展開していくならと思っています。



小林 直樹 教授

国語国文学の魅力

入学当初からここに進むことは決めていて、平安時代の古典文学をやりたいと思っていた。しかし、もちろん古典だけではなく、国語学全般を広く学ぶことができます。最初は、平安時代の古典文学しか興味ではなく、この部分を深く学ぼうと思っていたが、国語学について幅広く学ぶうちに、ほかの分野もとも面白くて興味がわいてきました。それから視野が広がり、普段の日常生活において新たな視点で物事を見るようになりました。そして、これから卒論で取り上げていきたいテーマとして、「平安時代の落葉物語と室町時代の落葉物語（改作本）の比較」を考えています。

国語国文学コース



先生にとって国語国文学とは!?



久堀 裕朗 准教授

その心は!?

私の一番の専門は、日本文学の中でも人形浄瑠璃（文楽）です。文楽に興味を持ちはじめたのは大学に入ってからで、それまでは歌舞伎や文楽の世界を全く知りませんでした。初めて劇場に行き、私は文楽を、未知の、現代とは全く別の世界のものであると感じました。それから文楽について色々と研究し、作品を深く知るようになりましたが、未だに私の常識では思いつかないような世界がそこにはあります。

国語国文学の魅力の一つは、そういう別世界との出会いですね。しかし矛盾するかもしれません、それは別世界であるけれども、同じ日本のものですから、自分に直接つながっている世界でもあるのです。古い時代のものは、現代人は分からなくなったりもありますが、その時代から続いている日本というものもあります。昔と今を比べて、変わった所や変わらない所を見発見することが出来る。その両方が魅力ですね。

先生と中国語中国文学

学生の時、ちょうど文化大革命が終わってばかりで、社会主義中国に興味を持ち、中国語を勉強するようになりました。4回生の時、天津に留学し、中国人は芝居が大好きな民族ということもあり、伝統演劇である京劇を見ました。そこで中国人と同じ気持ちを共有できた（ように思った）ことが、今まで中国と付き合っている理由ですね。今は、20世紀の中国文学のなかでも特に演劇について研究していて、「戯曲」という芝居の番付を集め、そこから中国演劇の歴史や文化的意味を見直そうとしています。「戯曲」はこれまで全く研究対象にならなかったけど、当時の上演実態を唯一証明するものと言えるぐらい重要な資料です。20世紀の中国文化の中で、演劇はすごく大きな位置を占めているけど、これまではエリート文化の視点から演劇文化が研究されてきただけなので、逆に演劇文化からエリート文化を見直すということをやりたい。



松浦 恒雄 教授

中国語中国文学の魅力

当初から中国の武術に興味があり、中国にも興味を抱いていました。そして、中国の歴史や思想について勉強し、また大学での中国語の授業が面白かったので、ここで勉強しようと決めました。2回生で、中国の文学史、思想史、コミュニケーション、中国語学などをひど通り学んだ上で、今は特に思想史に興味を持ち、中国思想をもっと深く学びたいと思っています。日本人が中国に対して悪いイメージを抱いているのは、中国のことを知らないからです。中国での善悪は、その本質を学ばない限りわかりません。現在のニュースなどで「表面的な」中国だけで判断せず、本質を学んで中国のことをもっと知ってほしいです。学ぶ環境は整っています。

中国語中国文学コース

先生にとって中国語中国文学とは!?



張 新民 准教授

その心は!?

まず、この漢詩は、「勉強だけして考えていなければだまされる。考えるだけで勉強しなければ結局何にもならない」という意味です。つまり、中国語や中国文学を勉強する際にも、しっかり考えながらやってほしいし、実際に自分の役に立つように勉強するためには、自分の考えを持っておくことが大切だと思います。私にとって中国語中国文学の魅力は、まず「新しい発見がある」ということです。もともと日本人と中国人は似た部分が多いけど、勉強することでいろいろな不思議なもの・新しいものを発見できます。例えば、漢字は中国から伝來したものだが、日本から中国へ逆に漢字の意味などが伝播して、現在の漢字の半分近くは日本語から成立したものだと言われています。これからも

先生とフランス語圏言語文化



フランス語圏言語文化の魅力

私は当初、美術に興味があり、その道に進みたいと思いました。アトリエにも通っていましたが、そこで厳しい現実を知り、進路変更を決心しました。あるとき図書館にて、「ボーラー全集」を見つけ、手に取って読んでみると、とても面白くて興味を持ちました。もともと西洋文學に興味があったこともあり、フランス文學を勉強しようと思いました。大学1回生のとき受けた「西洋美術史」の授業で、ボーラーの絵画に関する批評が取り上げられていて、その文章が詩のようにきれいで、これが私の卒論テーマにも影響しました。現在は、19世紀末の芸術と文化、社会などへテーマを少しずらし、当時の女優のサラ・ベルナルについて研究しています。近年、海外でも注目されている人物です。これからは「日本とフランスとの関係」、特に日本におけるフランス文化の受容についても見ていきたいと思っています。

先生にとって フランス語圏言語文化とは？！



ドイツ語フランス語圏言語文化コース フランス語圏言語文化領域



その心は？！

異質なもの（他者）との出会いというのは、人生において非常に大切です。そして、他者と理解し合うためには、対話（ぼくの研究テーマです）が必要ですね。対話によって仲間になったら、今度は連帯が必要になります。連帯というのは、平等の上に互いをリスペクトしあってつながるという考え方です。いまやフランスの標語は有名な三つにこれを加えて「自由・平等・友愛・連帯」といわれますが、このような考え方方がフランス語圏を学べば身につくわけです。もちろん、フランス語ができるようになるのは、この領域最大の魅力です。世界中に広がるフランス語圏の持つリソースを利用できるようになって、英語圏からだけでは見えなかった多角的な視野が持てるのです。うちではフランス語圏に関することなら、他コース的なことも勉強できます。フランス語のリソースを使えるところが違うのです。少しでもフランス語が好きだったら、この領域で勉強することで、大きな世界が開けると思いますよ。



4回生 松島 華さん

卒論テーマ抜粋

- ・ゾラの『制作』におけるクロードの変容
- ・フランス人にとって農業とは
- ・ジャン＝ピ埃尔・ジュネにおける映画製作のスタイルの確立
- ・ジャン・ジュネ『泥棒日記』における一人称「わたし」とその効果について
- ・ココ・シャネル『カメリア・コレクション』の起源について
- ・ZEP 政策が移民社会にもたらしたもの
- ・エティエンヌ・ドゥクルー一時代背景と身体観の変化
- ・フランスと日本の子育て

「フランス語コミュニケーション！」

フランク・デルバール 特任講師

言語文化

学科院

<文学研究科>

哲学歴史学専攻

- 哲学専修
- 日本史学専修
- 東洋史学専修
- 西洋史学専修

人間行動学専攻

- 社会学専修
- 心理学専修
- 教育学専修
- 地理学専修

言語文化学専攻

- 国語国文学専修
- 中国語中国文学専修
- 英語英米文学専修
- ドイツ語フランス語圏言語文化専修
- 言語応用学専修
- 表現文化学専修

アジア都市文化学専攻

これは、学士課程ではなく、
大学院にだけ設置されている。

先生と言語応用



学生時代、英語にも日本語にも興味はありました。しかし、英語と思っていました。当時はまったく研究者になるつもりがなく、高校教員になるために大学院に進みました。そして、そこで出会った先生から言葉そのものの面白さや言語研究の奥深さを学び、言葉に対する考え方があわらうのです。それから言語応用を専攻し、研究者の道へと進んだのです。

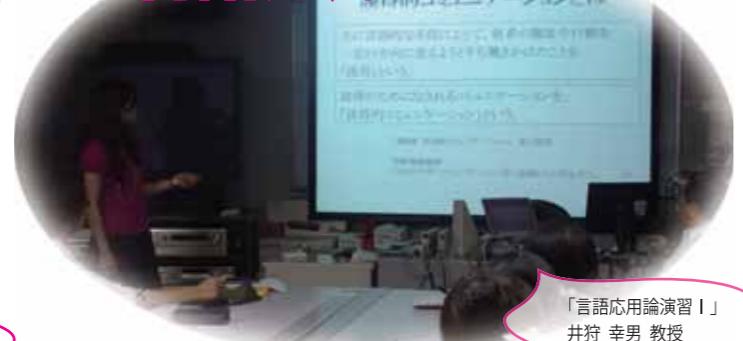
今は英語の時制研究を行っています。例えば、「時制の照應現象」ですね。間接話法構文の that の時制を主節の時制に合わせる、いわゆる「時制の一致」と呼ばれるものです。

これまで、時制の研究は、一文単位で研究されるのが主流でした。しかし、もっと大きな単位で、例えば、談話単位で時制はどのように選択されているのか、など範囲を広げて考えてみたいのです。

先生にとって言語応用とは？！



言語応用コース



その心は？！

言語応用学という名称からも言葉と縁があり、言葉にこだわります。言葉というのはまさに私が今、使っている言葉であり人と人とをつなぐもの。ゆえに人間が人間たるところであり、人間の意味、人間らしさを表す非常に大きな部分であると思うのです。言葉を通じて、人間とは何かを考えます。また、現代のことだけではなく、過去の有り様を知ることも面白いです。それは、遠視用、近視用、サングラスなど世界を様々な見方で楽しめる、という点で眼鏡と似ていると思うのです。

言葉「を」、言語「を」応用する。あるいは言語「に」何かを応用する、ということです。言葉の様々な面を通じて、言葉以外の別の領域に持っていくならどうなるか、ということを研究できます。



4回生 立花 直樹さん

卒論テーマ抜粋

- ・語呂合わせの種類と効果
- ・字幕と書き替えの比較から見る映画の中の言葉
- ・漫画の中の特殊カタカナ語表現
- ・読み物「動く歩道」
- ・スポーツにおけるニックネームの考察
- ・食品に関する新聞広告における言語表現の考察
- ・日本のテレビ番組におけるテロップ表現
- ・絵本の表現についての考察
- ・省略語の伝達性と理解～新語に着目して～

「言語応用論演習！」

井狩 幸男 教授

先生と表現文化



三上 雅子 教授

表現文化の魅力

表現文化の魅力

僕は高校のころから、お笑いのことを勉強したいと思っていました。コースガイダンスにて、表文の先生が、「文化のすべてが対象になる。演劇・音楽・映画・お笑いなど……」と言っていたことが決め手となり、表文に進みました。表文の魅力としては、ポピュラーなことが何でもできることや、他に、普段体験できない経験ができることです。先生が有名な映画監督と知り合いで、素人だけで構成された映画に出演する人もいました。

僕の卒論論文のテーマは、「すべり芸」についてです。なぜ「すべる」というのが「ウケる」ことにつながるのかがすごく気になっています。

表現文化コース



4回生 北代 祐太さん

卒論テーマ抜粋

- ・映画『リング』にみる女性とメディア、その逆転の構図
- ・マイケル・ジャクソンのミュージック・ビデオに見る「音楽作品」としての映像作品
- ・『風の谷のナウシカ』『もののけ姫』にみる自然と人との関わり
- ・現代社会におけるキャラクターの受容と利用 一ゆるキャラを例に
- ・フリーマガジン『R25』論 一編集上の特徴からみる独自性
- ・映像作品における喫煙規制 一日本から喫煙シーンが消える日
- ・押井守のメッセージ

その心は？！



荒木 映子 教授

アジア都市文化学専攻

って??

実際に授業を受けて感じることは?
という2点についてインタビューしました☆



アジア都市文化学専攻は、「日本を含むアジアをフィールドとして、様々な『現代』の文化的問題を考える場」だと言えます。そのキーワードは、都市・現代・フィールドワーク!!

アジアと関係性の強い現代的な問題を研究したい人は是非ここに来て下さい☆



大阪の都市の中での音楽実践について研究していく、「関西ゼロ世代」というバンドに焦点を当てています。そこで一つの音楽シーンを取り上げてそこから色々考察していくと思っています。
学際的なことが学べる、これがアジア都市文化学専攻の一番の良さだと思います！



日本の若者のファッショントリ뷴のものではなく、例えばファッショントリーンの世代間格差などの社会問題を若者の視点から考えています。
この専攻の授業内容は範囲がとても広いですね♪ 民族の研究もすれば、消費文化、グローバル化などについての授業もあります。

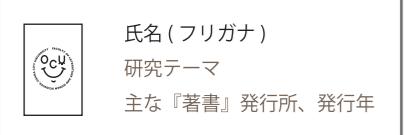


日本人の作曲家の武満徹について研究しようと思っています。
アジア都市文化学専攻の授業を受けて、広い視野を持って学べるようになりました。



これはガムランと呼ばれるインドネシアの楽器です。学部生向けの全学共通の授業でもガムランを演奏する授業があるのですが、とても人気で毎回抽選になってしまします。楽譜も普通のものとは異なり、数字などが用いられています。

教員一覧



氏名(フリガナ)
研究テーマ
主な『著書』発行所、発行年



平田茂樹 (ヒラタシゲキ) 教授
中国近世史・科挙・官僚制を中心とする政治構造の歴史
『科挙と官僚制』山川出版社、1997



野村 親義 (ノムラチカヨシ) 准教授
近現代インド経済史



井上 浩一 (イノウエコウイチ) 教授
ビザンツ帝国 (東ローマ帝国) の政治と社会。
皇帝・貴族から農民・市民に至る諸階層が織りなす歴史
『ビザンツ 文明の継承と変容』京都大学学術出版会、2009



大黒 俊二 (オオグロシュンジ) 教授
中世・ルネサンス期のイタリアおよび地中海世界の社会史・経済史
『声と文字』岩波書店、2010



北村 昌史 (キタムラマサシ) 准教授
近現代ヨーロッパ、とくにドイツの社会史
『ドイツ住宅改革運動——19世紀の都市化と市民社会——』京都大学学術出版会、2007



仲原 孝 (ナカハラタカシ) 教授
宗教と哲学との関係。カントやハイデガーを中心とする近現代ドイツの宗教哲学の研究
『ハイデガーの根本洞察』昭和堂、2008



土屋 貴志 (ツチヤタカシ) 准教授
現代英米倫理学・医療倫理学 (現代医療に関する倫理的諸問題の研究)
『先端医療の社会学』 (共編著) 世界思想社、2010



高梨 友宏 (タカナシトモヒロ) 准教授
ドイツ近現代美学、京都学派の芸術論
『美的経験の現象学を超えて』晃洋書房、2001

○日本史コース



塚田孝 (ツカダタカシ) 教授
近世 (江戸時代) の巨大都市である江戸や大阪の民衆生活のあり方を近代まで視野に入れて研究。和泉地域の寺院社会史も研究
『歴史のなかの大坂』岩波書店、2002



仁木宏 (ニキヒロシ) 教授
中世～近世初頭の近畿地方を中心として、都市や村落の歴史を研究
『戦国時代、村と町のかたち』山川出版社、2004



岸本直文 (キシモトナオフミ) 准教授
古墳や古墳群を通じて古墳時代社会について研究。近畿地方の前方後円墳の調査を順次実施する予定



佐賀朝 (サガアシタ) 准教授
日本近現代史、特に近代大阪の都市社会史
『近代大阪の都市社会構造』日本経済評論社、2007

○世界史コース



井上徹 (イノウエトオル) 教授
中国の明清時代及び近代を中心とする社会史
『中国の宗族と国家の礼制』研文出版、2000



早瀬晋三 (ハヤセシンゾウ) 教授
海城東南アジアの歴史 (海洋民や小民族)、フィリピン・日本関係史
『海城イスラーム社会の歴史』岩波書店、2003

○教育学コース



堀内達夫 (ホリウチタツオ) 教授
近代社会の教育、教育と雇用・キャリアの関係、技術・職業教育の国際比較
『フランス教育の伝統と革新』(編著) 大学教育出版、2009



湯浅恭正 (ユアサタカマサ) 教授
特別なニーズ教育、インクルージョン教育、生活指導の研究
『特別支援教育を変える授業づくり・学級づくり (全3巻)』(編著) 明治図書、2009



添田 靖雄 (ソエダハルオ) 准教授
比較教育文化史・教育・学習における話すこと聞くことの研究、いじめ問題の国際比較
『世界のいじめ』(共編著) 金子書房、1998



潤沢潤 (タキザワジュン) 准教授
教育行政学、教育制度学、アメリカ合衆国における言語マイノリティ教育政策・制度

○地理学コース



大場茂明 (オオバシゲアキ) 教授
日本・ドイツにおける都市政策の比較研究 (土地・住宅政策、都市開発・再開発事業)
『近代ドイツの市街地形成』ミネルヴァ書房、2003



水内俊雄 (ミズウチトシオ) 教授 (兼担)
都市のホームレス問題・住宅問題の現状や歴史的系譜に関する社会地理学的研究
『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間』(共著) ナカニシヤ出版、2008



山崎孝史 (ヤマザキタカシ) 教授
グローバルな政治経済的変動とローカルな社会運動に関する政治・社会地理学的研究



祖田亮次 (ソダリョウジ) 准教授
人文地理学、人口移動、資源利用・管理、災害文化、東南アジア地域研究
『People on the move: rural-urban interactions in Sarawak』Kyoto Univ. Press and Trans Pacific Press, 2007



木村義成 (キムラヨシナリ) 講師
地理情報システム、ジオデモグラフィクス、保健医療分野におけるGISの応用

★人間行動学科

○社会学コース



谷富夫 (タニトミオ) 教授
都市社会学・民族関係論・宗教社会学
『よくわかる質的社会調査—技法編』(共編著) ミネルヴァ書房、2009



進藤雄三 (シンドウユウゾウ) 教授
理論社会学・医療社会学・家族社会学 (ポストモダン論、医療専門職論、近代家族論研究)
『近代性論再考: パーソンズ理論の射程』世界思想社、2006



石田 佐恵子 (イシタサエコ) 教授
文化社会学・現代文化研究・知識社会学
『ポスト韓流のメディア社会学』ミネルヴァ書房、2007



川野英二 (カワノエイジ) 准教授
都市政策・社会政策の比較社会学、リスク社会論、フランス地域研究



木村 義成 (キムラヨシナリ) 講師
地理情報システム、ジオデモグラフィクス、保健医療分野におけるGISの応用

○心理学コース



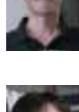
伊藤正人 (イトウマサト) 教授
学習心理学: 実験的行動分析、ヒトと動物の意思決定、セルフコントロールと衝動性
『心理学研究法入門: 行動研究のための研究計画とデータ解析』昭和堂、2006



池上知子 (イケガミトモコ) 教授
社会心理学: 社会的認知、偏見とステレオタイプ、社会的アイデンティティと階層システム
『グラフィック社会心理学 (第2版)』(共著) サイエンス社、2008



川邊光一 (カワベコウイチ) 准教授
生理心理学: 心と身体 (脳)、行動と薬物、学習・記憶現象の脳内機構



佐伯大輔 (サエキダイスケ) 准教授
判断、意思決定、選択、推論

○言語文化学科

★言語文化学科

○国語文学コース



村田正博 (ムラタマサヒロ) 教授
古代の文学者 (人麻呂や家持ら) は詩歌にどんな事を託したか、我々はそれをいかに受け取るか
『萬葉の歌人とその表現』清文堂、2003



丹羽哲也 (ニワテツヤ) 教授
現代語の意味と文法。日常われわれが使っていることばがいかなる体系と豊かさを持ち、それが変化してきたか
『日本語の題目文』和泉書院、2006



小林直樹 (コバヤシナオキ) 教授
中世の説話伝承文学の研究
『中世説話集とその基盤』和泉書院、2004

○教育学コース

○教育学コース



久堀裕朗 (クボリヒロアキ) 准教授
近世文学、主に人形浄瑠璃史の研究
『上方文化講座 菅原伝授手習鑑』(共編著) 和泉書院、2009



山口久和 (ヤマグチヒサカズ) 教授
明清時代を中心とする中国近世思想史
『章学誠の知識論——以考証学批判為中心』上海戸籍出版社、2006



斎藤茂 (サイトウシゲル) 教授
唐宋文学を中心とした中国古典文学
『孟郊研究』汲古書院、2008



松浦恒雄 (マツウラツネオ) 教授
19世紀末以降の中国近現代文学、および演劇
『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』(編著) 世界思想社、2003



岩本真理 (イワモトマリ) 准教授
中国語の語彙・語法の変化をとげてきたのか、通時のな変遷を追う。また、唐話学と蘭語学を隣接した領域として捉え直す作業を継続中



張新民 (チョウシンミン) 准教授
現代中国文化論及び映画研究。初期中国映画について、その社会的地位の構築という角度から研究。日中戦争中の上海や華北など所謂「淪陥区」の映画も研究



大岩本幸次 (オオイワモトコウジ) 准教授
近世を中心とした中国語音韻学
『金代字書の研究』東北大出版会、2007



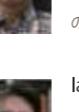
濱戸賢一 (セトケンイチ) 教授
英語という言葉が実際のコンテキストのなかで持つ意味を、語・構文を中心に研究。意味論、レトリック論
『英語多義ネットワーク辞典』(編著) 小学館、2007



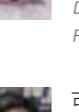
杉井正史 (スギイマサシ) 教授
シェークスピアの喜劇を中心とするイギリス演劇と当時の政治・宗教
『シェークスピア喜劇の象徴的技法』大阪教育図書、2004



田中孝信 (タナカタカノブ) 教授
文学テクストと大衆メディアとの研究
『ディケンズのジェンダー観の変遷——中心と周縁とのせめぎ合い』音書房鶴見書店、2006



Ian Murray RICHARDS (イアンマレー) 准教授
英語圏における言葉と文化の関係
『Dark Sneaks in: Essays on the Short Fiction of Janet Frame』, Lonely Arts, 2004



古賀哲男 (コガテツオ) 准教授
詩とは何か、小説とは何か、という問いを、アメリカのロマン派から今日のポストモダニズムに至る射程で研究。および北米の芸術・文化論
『ウォレス・スティーヴンズ』世界思想社、2007



岩田彩志 (イワタセイジ) 准教授
語の意味論を中心として、統語論や語用論を幅広く研究
『Locative Alternation: A Lexical-Constructional Approach』, John Benjamins, 2008



三上雅子 (ミカミマサコ) 教授
現代演劇論、特に日本と英米・ヨーロッパ (特にドイツ語圏) 現代演劇研究

○ドイツ語フランス語圏言語文化コース

■ドイツ語圏言語文化領域

寺井俊正 (テライトシマサ) 教授
世纪末以降の现代文学 (特にホーフマンスタイルを中心) に詩・詩論・文学理論などを

神竹道士 (カミタケミチオ

取得可能資格

学部

高等学校教諭1種免許状 <地理歴史、公民、国語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語>
中学校教諭1種免許状 <社会、国語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語>
学芸員 <博物館学芸員資格>
社会調査士
認定心理士

大学院

高等学校教諭専修免許状 <地理歴史、公民、国語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語>
中学校教諭専修免許状 <社会、国語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語>

進路先一覧 2009年度

大学院 大阪市立大学大学院
大阪大学大学院
静岡大学大学院

教員 大阪府中学校
大阪府立生野高等学校
浪速中学・高等学校
西大和学園中学校・高等学校

公務員 大阪国税局
兵庫県警察
厚生労働省職業安定局
近畿経済産業局
大阪地方検察局
東京地方裁判所
国税局（国税専門官）
文部科学省
大阪府
奈良県
和歌山県
奈良市
東京都教育委員会
奈良県小中学校事務職

教育 ワオ・コーポレーション
日本漢字能力検定協会
国立大学法人大阪大学
国立大学法人奈良教育大学
中央出版

銀行・金融 近畿大阪銀行
泉州銀行
南都銀行
池田銀行
みなど銀行
三井住友銀行

保険 日本生命
住友生命
ソニー生命保険

商社 丸紅

百貨店・小売 イズミヤ
京阪百貨店
近鉄百貨店
マイカル
イオンリテール

出版・印刷 グラフィックス
織研新聞社
NPCコーポレーション
大日本印刷
ガスレビュー
ひかりのくに

情報サービス エフシーエス
中央コンピューター
ティクタウン
オースピー
富士通九州システムズ
UFJ日立システム
楽天株式会社
トランスクスマス
NTTコムウェア・ビリングソリューション
日立システムアンドサービス

不動産・住宅 積水不動産関西
フジ住宅
福屋工務店

製造 川崎重工業
ブリヂストン
シャープ
トヨタ自動車
オムロン
三菱電機エンジニアリング
関西ペイント
三菱重工業
トクセン工業
ヒエン電工
三菱電機
NEC
三菱製紙
パナソニック電工

織維・アパレル アシックス
クローバー
青山商事
コックス

食品 片岡物産
宝酒造
日本ハム西販売

交通・観光 阪急交通社
阪急阪神交通社ホールディングス
クラブツーリズム
ANAスカイパラ

運輸 全日本空輸
住和港運

医薬品 医薬品医療機器総合機構
EMシステムズ

電気・ガス 関西電力

その他 神戸福生会
エン・ジャパン
東京海上日動キャリアサービス
郵便局
大和農園通信販売部
ワークスアプリケーションズ
アケボノクラウン
栄光堂セレモニーユニオン
岡篠商事
ナムコ
ヤンマークレジットサービス
本間ゴルフ
さんぽう
社会福祉法人聖家族の家
太陽企画
関西クレジット
イシダ
住信ビジネスサービス
チョイスホテルズジャパン
おうみ富士農業協同組合
JA堺市

大学院 大阪市立大学大学院
京都大学大学院
東京大学大学院
神戸大学大学院

教育 公立大学法人大阪市立大学
中央出版
鈴鹿英数学院
明倫ゼミナール

教員 大阪市
大阪府
四條畷学園中学校・高等学校
奈良県
私立賢明女子学院中学校・高等学校

公務員 枚方市
近畿地方更生保護委員会
海南市
日本政策金融公庫中小企業事業

銀行・金融 池田銀行
三菱東京UFJ銀行
北陸銀行
紀陽銀行
滋賀銀行
近畿大阪銀行
京都中央信用金庫
関西アーバン銀行
泉州銀行
滋賀中央信用金庫

食品 ニチレイ
マリンフォード
中島大祥堂
日本誠食
サントリーフーズ

保険 日本生命保険相互会社
日新火災海上保険

商社 テクノアソシエ
大銘産業

放送・廣告・通信 朝日放送
ビデオリサーチ
ジュピターテレコム（J:COM）

百貨店・小売 オークワ
サンプラザ
J.フロントリテイリング
生活協同組合コープこうべ

出版・印刷 真生印刷
日本放送出版協会

情報サービス UFJ日立システムズ
ワークスアプリケーションズ
日立システムズアンドサービス

銀行 池田銀行
三菱東京UFJ銀行
北陸銀行
紀陽銀行
滋賀銀行
近畿大阪銀行
京都中央信用金庫
関西アーバン銀行
泉州銀行
滋賀中央信用金庫

食品 ニチレイ
マリンフォード
中島大祥堂
日本誠食
サントリーフーズ

織維・アパレル 宇仁織維

観光 小田急ソーツ
JTB大阪

運輸 南海電気鉄道
阪急電鉄
丸一海運

医薬品 京都薬品工業
中外製薬

電気・ガス 大阪ガス

その他 タナカグループ
郵便局

大阪ガスセキュリティーサービス
医療法人人生会加藤クリニック

CDG

タケモトデンキ

日本赤十字社

梅田総合法律事務所

愛眼

総合プランニング

ベネッセスタイルケア

東西法律事務所

三井倉庫

ウェルコ

ヤマシタコーポレーション

日本アクセス

奈良県信用保証協会

郵便事業

インタビュー

大学院

▼その道に進んだ理由は？

卒業論文を書くにあたって、自分の力不足を痛感したためです。院で勉強、研究することで、新しい視点を獲得したいと思います。教師志望の私にとっても今後重要なものになると考えます。

▼文学部での学びでいまいかされていることは？

教育学の皆さんと出会って、共に学びあう楽しさを得られましたと思います。その楽しさは自分の根底にあり続けるでしょう。院でこの楽しさを追求し、将来教師になんでも追求し続けたいと思います。

一般企業

▼その道に進んだ理由は？

歴史学、特に西洋史という事であれば専門を活かせる仕事は限られています。それなら一旦リセットして仕事は選ぼうと思いました。その中で自分の「楽しい」を多くの人の「喜び」に昇華できるようなエンターテイメントを選びました。

▼文学部での学びでいまいかされていることは？

物事を多面的に眺めるという事です。過去という曖昧なものを捉える為にあらゆる角度から様々な解釈が試みられる中で、情報の取捨選択をして考えを纏めるという作業は、今を生きる上でも十分応用ができます。過去という実社会を通してその方法論を学べたのは大きかったです。

教員

▼その道に進んだ理由は？

人と関わる仕事がしたかったからです。日々の生活の中で、その時を全力で生きている子供たちと接することができるのが何よりも魅力的でした。また、学生としての楽しさも社会人としての厳しさもあった教育実習の体験が、直接のきっかけになりました。

公務員

▼その道に進んだ理由は？

一番は、安定した職業につきたかったからです。それから、市役所には色々な課があり、人事異動も多いので、様々な種類仕事を体験できることも魅力的でした。

▼文学部での学びでいまいかされていることは？

人間観察能力です。私は在学中社会学コースでしたので、様々な立場の人を俯瞰的に観察し、分析する学問を勉強してきました。職場で求められるのも、そのように相手を分析し、その情報活用する能力です。仕事上の知識は実践の中で身につけるもの。文学部ではそれ以上の「人」に対する勉強ができるところだと思います。

もっと知りたい！文学部

文学部にはどんな人が？ 大学生活って実際どんな感じ？

そんな疑問にお答えするため、文学部生・院生の方々にインタビューしてみました！

1回生 山下 優樹くん

市大を選んだ理由

もともと読書が好きで国語に興味があり、文学部に入りたいと思っていました。大阪に行きたいという強い思いがあり、また学術情報総合センターには本がたくさんあることを知って、市大文学部を選びました。

周りの文学部生は？

実際に話してみると誠実で、授業態度が真面目という僕の想像していたような“文学部っぽい”人が多いですが、またその中でもちょくちょくはじめた人もいて、そのギャップがおもしろいですね。

1回生 山口 有耶さん

市大を選んだ理由

夢や目標を持っているいろいろな学問を学ぶ人がいる文学部の中で刺激を受けて、将来の人格形成に役立てようと思ったからです。1回生の間に興味が変わるかもしれないで、2回生からコースが選べることも理由の一つです。

周りの文学部生は？

もともと国語は苦手科目でしたが、「国語は『心』を見るもの」という高校時代の先生の言葉を聞いて、文学っていいなあと感じるようになりました。文学作品を読む中で心が動かされる面白さをみんなに伝えたいです！

左の山下くんは鹿児島県出身ですが、文学部生は他にどんなところから来ているのでしょうか？ 135人に聞いてみた上位5位がこちら！



大阪を筆頭に近畿地方出身の人が多いですが、実は他にも
福岡県・広島県・岡山県・石川県・富山県・愛知県
香川県・鳥取県・岐阜県・etc...
のように文学部には様々な地方から来ている人がいます。

人間行動学科 教育学コース

2回生 杉林 慎士くん

コースに入ってからの変化は？

コースに入ってからは自分のやりたいことについて詳しく勉強でき、思った以上に教育には様々な視点があることに気づくことができました。また、コースの人たち一人ひとりが自分の考えを持っているので、日々新たな発見をしています。

市大文学部の雰囲気を一言で表すと？

子どもに好かれる・子どものためになる教師になる！
生徒が卒業して10年後「あの先生良かつたなあ」と思われる先生になりたいです。

自然体

文学部にはコース選択までに他学部ではない1年間の猶予期間があり、その期間で自分が自然体でいることのできる友達にたくさん出会い、楽しく、明るい学生生活を送れるからです。

言語文化学科 英米言語文化コース
4回生 塩田 知加さん



ラスト1年
楽しんでいますか？

友達と食堂でご飯を食べたり、サークルで一緒に過ごしたりする学生の間でしか過ごせないような何気ない時間が幸せで、そんな風にみんなと一緒にいられることが楽しいです。卒論もありますが、東南アジアの国々とか、英語圏や仏語圏にも行ってみたいです。

市大文学部の雰囲気を一言で表すと？

ほんわか

色んなジャンルの人がいるけれど変に自分を主張しそぎることもなく、かといって畏縮することもなくのびのびと過ごしていて、みんなが仲良しなところがほんわかしているなと思います。

哲學歴史学専攻 日本史学専修
前期博士課程1回生 川元 奈々さん



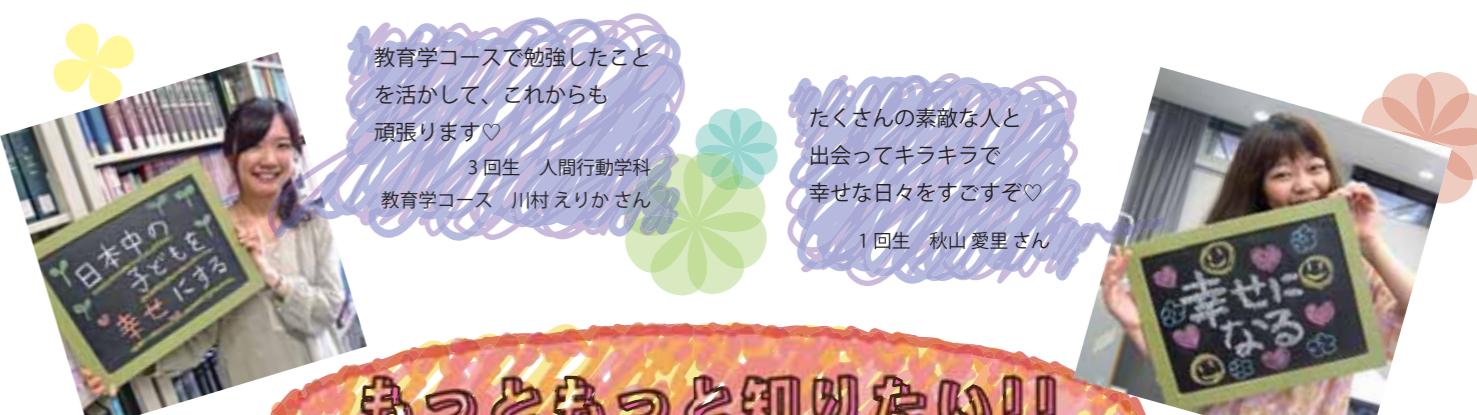
何故院に進もうと思いましたか？

1回生のコース選択の時に英米言語文化コースか日本史コースかで迷って、結局英文に進みました。卒業時に進路を考えた時、勉強したいと思う中で、先生に「自分のしたいことをしなさい」と言われ、新しいことへの挑戦に不安を感じましたが、日本史の院に進みました。

市大文学部で過ごして得たもの

英文から日本史に行って、学生時代をなんとなく過ごすのではなく、どういう風に大学生活を過ごしたいか、どんな勉強をしたいのか明確に意識して行動することが大事だと気付けたことです。

たとえ将来日本史と関係のない職に就いたとしても、片手間でもいいから日本史に関わっていてほしいです。



もっともっと知りたい!!

いろんな場所にいる文学部の他の方々にも
夢や目標を尋ねてみました！

教育学コースで勉強したこと
を活かして、これからも
頑張ります♡

3回生 人間行動学科
教育学コース 川村えりかさん

たくさんの素敵な人と
出会ってキラキラで
幸せな日々をすごすぞ♡

1回生 秋山愛里さん



色々な人に会いたいです！

2回生 人間行動学科
社会学コース 坂本拓磨くん

今しかできないことに
挑戦し続け自分磨きをする！

1回生 山本真里江さん



ラジオ・テレビ局のパート探してます！

1回生 二宮新太くん



次は…



先生に
語ってもらいました！

学生とは違う視点を求めて 先生 教えて 文学部

心理学コース

川邊光一准教授

1回生
ゆうな



学生については、「底力」があるなど。表面的には分かりにくいけれども、本気になれば出てくるものを見内に秘めている。学生にはその力をどんどん磨いていってほしいですね。自分なりの努力もね、怠らないでね。持っているものを深めていってもらいたいなっていうのがありますよね。それから教員に関しては、みなさん個性的でね。みんな専門がそれぞれ違うでしょう。「文学部は小さな総合大学」とよく言われるくらいに専門が分かれています、そのようなところが学生に個性的に映るんでしょうね。

市大文学部の主役は学生だけじゃない!!

2人の先生に「市大文学部」について、語ってもらいました★

文学部生・先生の魅力とは!?

社会学コース

谷富夫教授



市大生は総じて真面目なんですが、その中でも文学部生って特に真面目だと思いますね。例えば僕の担当している『心と脳』という共通教育科目は、理系学部と遜色ないですね。場合によっては上回ることも…。また、教員と学生の距離は近いんじゃないでしょうか。教員が69名、学生が各回生約160名。少人数教育が実践されており、必然的に学生との距離が近くなる。皆でワイワイ仲良くやっていますね。



知識教養を取り入れる、経験の中で自分を磨くということに文学部は最適の場ですよね。なぜかというとね、全く違う学問を比べて見て自分に合うものを探すことができるというのは非常にね、大学生として恵まれた環境だと思いますよね。そういう環境をね、積極的に活用してもらいたいわけ。それを言いたい。始めから決めつけずに、新しいものにもどんどん取り組んでいく自分がしたいことを見つけてほしい。

学生になくなつてほしいですか?

1回生
ひろみ



ウチの学部は「小さな総合大学」と称してて、幅広い知識を身につけられる機会があるので、色々な領域に手を出して、積極的に学んでいってほしいかな。色々な考え方を身につけ、状況に応じた対処能力を習得していってほしいと思いますね。

まずは目標を持って大学に来る方が頑張りになりますね。ただ、入学後はその目標を相対化する勇気、つまり視野を広くする勇気を持ってほしいね。大学に入るまでは1つの目標に向かって頑張ることが大事だけれども、

その目標に到達してからは「破壊と創造」の勇気、そして、新しいものに目を向けてほしい。

ご協力
ありがとうございました!!



1人1人の先生がかなり面白い研究をされていて、文化の香りが高い学部だと思います。話をしていても面白い先生が多いので、ぜひ大学の方に来てください。オープンキャンパスに来れば、ラット(ネズミ)の脳が見えるよ(=実験室に入れるよ)。

のぞいてみよう! 文学部

市大文学部の4人が学年を越えて文学部について思い思ってみました。
学生目線のリアルな会話を聞いてみよう!

たつや 4回生
哲学歴史学科
日本史コース
元ダンスサークル所属

なぎさ 2回生
言語文化学科
フランス語圏言語文化領域
コースボスティル部所属

まこと 2回生
哲学歴史学科
世界史コース
写真部 所属

えりこ 1回生
アカペラサークル
軽音サークル 所属



えりこ: 今日は学年を越えての座談会です!!

たつや: まあいつもこんな感じで仲良くしゃべってるよな!

なぎさ: ジャあ早速やけど、文学部ってどんなイメージがあった?

えりこ: 文学部って言ったら読書っていうイメージがあって。基本的に大人しい学生が多いんかなって勝手に思ってました。

たつや: でも実際はそんなことないよな! おれらめっちゃアクティブやし(笑)。まことちゃんは?

まこと: あー、っていっても僕はあまりイメージっていうのはなかったかなあ。

たつや: 文学部って、そもそも人間に関する研究をするところやから文学部の人と関わらな具体的なイメージがわきにくいのは、当然ちゃう?

なぎさ: 文学部に興味があるとか進路を迷ってる人は、先入観に捕らわれないでまずは見に行くってことが大事やんな。

まこと: オープンキャンパスとかまさに文学部の人間が作ってるからな!

たつや: そうそう。ほんまにいろんな人がいるところ、それがこの学部のいいところ。いろんな人がいないと成り立たへんし。

なぎさ: いろんな人といえばあるやん? その人のことなんかも知らんのに、イメージだけで人を判断することとか。

えりこ: それってほんまにもったいないです。

たつや: 最初、あー……ちょっとこれはって思っても、一步踏みこんでみるとおもしろかったりする。そういうことが出来るようになったときが、また一つ高校から大学への新しいステップアップを感じる瞬間やね。

まこと: 高校の時しゃべってなかつたけど、大学入ってしゃべってみたら、お! こんな奴なんやって初めてわかつたりするのをおもしろい!

なぎさ: 何にしても自分のイメージを越えないのはつまらないよね。

たつや: ほんまにそれやわ。おれイメージ破りたい!! (笑)

えりこ: どんどん破ってください(笑)

まこと: やっぱ一步踏み込んで、いろいろ見聞きた方がおもしろいしな。

なぎさ: 回り道するくらいがちょうどいいんちゃう?

まこと: そうそう!! その道の途中でいろんなものを拾つたらいいと思う。

たつや: 大学は高校よりいっぱい得るものあるから、精神的にぐっと変わるよな。

えりこ: 変わりました! 想像もできなかつたくらい!

たつや: そもそも自分で自分を変えられる、成長させることができると思ってる時点で、たぶんそれは大きな勘違いやと思うねん。

えりこ: それってどういうことですか?

たつや: うん。花に例えると水もいるし光もいるし。そういう周りからの力をもらって、伸びるわけやん? ってことは、自分が伸びていきたい方向っていうのは、確かにあるけど、実際成長させてくれるのは、周りってことやんな。

まこと: 人間やったり環境やったりに影響されてるってことやね。

えりこ: すべては、ほんまにいろんな人がいるからですよね! たつさんみたいなおもしろい人とか!(笑)

たつや: ふっ、えりこもなかなかやけどな!(笑)

なぎさ: そそう。知らんかったら自分の視点でしか物事を見られへん。新しい世界を知るために、いろんなチャンスに自分から飛び込む方がいいよね。

たつや: オレもそう思う! えりこはちゃんと飛び込んでる?

えりこ: 私は入学してすぐに支援機構の企画に関わって、音楽系のサークル2つかけもちもして、めっちゃ忙しかったんですけど、そこでいろんな価値観を持った人と出会えて今すごく充実してます!

まこと: 僕も2回生になって初めてサークル入ってみたら、いっぱい人の輪が広がって、人とこんなに接することができるんやあって感動したわ。

なぎさ: だから思いつきとか、ちょっと動けば出来ることってほんまに多いんだ!

たつや: 現状に満足してないなって感じたら待つんじゃなくて自分から行動を起こせば、楽しいことだらけやん!

なぎさ: 大学はまさに自主性が肝心やからなあ。

まこと: 市大文学部は特に少人数制な分、先生と学生の距離も近いし、興味のあることに飛び込める環境はあるしな。

なぎさ: 先生と仲良くなりたいなと思ったらそのままの先生の研究室とか行って、勇気出して話しかけたりしたら、きっと受け入れてもらえるから、そうやって繋がっていけばいいと思う。

えりこ: 私は先輩後輩の距離がすごく近いことにびっくりしました。年齢関係なくこんな風に先輩と気軽に話できて嬉しいです!

まこと: えりこは、まだ入学して3ヶ月やとは思えへんくらい先輩と仲良くなってるよな!

たつや: 積極的に動いた結果やなあ。文学部っていう学部は、自分から行動すれば将来に繋がる何かを成し遂げることができる。ほんまに本人次第やね。

えりこ: そうですね。私もこれからの4年間アクティブに頑張ります!

なぎさ: あー、こんな短い時間じゃ文学部は語りきられへん!

たつや: そな、やっぱりリアルな市大文学部を知るには

踏み出す一步が大事!



